

## 令和3(2021)年「正覚寺報」7月号

## お知らせ

高齢者のコロナワクチン一回接種率も全国的に50%を超えたとの報道で少しは安堵感が増しつつありますが、七月はインドの変異株(デルタ株)の蔓延が案ぜられる今日この頃であり油断がなりません。皆様方にもどうか、用心深く、大切なご法座は、きちんとマスクをし、自ら管理し、心して営ませて戴きましょう。

記

**仏教壮年会お聴聞の会(7月4日(日)20時)**

**仏教婦人会例会(7月16日(金)19時半)**

**親鸞聖人讃仰布教大会に出講致します。**

年に一度、住職は、教務所指定の教区内一組をお訪ねして『親鸞聖人讃仰布教大会』に出講させて戴きます。年に一度ですからご案内が来てから一ヶ月程の間は、嘗ては不安が勝っていたのに、今ではそのときがやってくるのを楽しみにさせて戴くようになりました。

昨年は、コロナでお休みでしたので二年ぶりのご縁ですから、有り難さもひとしおです。

今年の会所は、愛知川河口近くの「稲枝西組圓廣寺様」です。同組には、十年近くも前に一度お訪ねしたことがありましたが、御門徒様のお聴聞が行き届いている滅多にないご法義処であったかと思ひ起こしております。

もし不足があるとしたら、それは住職自らのお取り次ぎの姿勢と力量不足にあり、十年前、同席された遠縁のご住職に何か一つお尋ねした思い出が蘇って参ります。

お法りの上での十年一昔の思い出は、「二河白道」の思い出が実感となって迫るようになったことでもあります。

嘗て南米開教区訪問支援に際して千人規

模のご法座では失敗が赦されないと心配になり思い余って行信教校の梯 實圓和上(当時行信教校の校長先生)にご相談申し上げました。

そのとき和上からは、「お念仏は難しいものじゃない。堅田さん、これでいい行ってらっしゃい」と励ましの御言葉を頂戴したこと、南米開教総長からは、「是非来て下さい」との御言葉を頂戴したことが思い起こされます。

「行け」という発遣の御言葉と、「来たれ」という招喚(お招き)の御言葉は、『二河白道』のお釈迦様と阿弥陀如来の御言葉であることは申すまでもありません。しかも、和上は、当時今生で発遣されるお釈迦様のご縁でしたが、今ではお浄土から頂戴する阿弥陀様の御言葉になるのであります。

南米から戻った明るる年の秋には一人の青年が当院を訪ねられ、ご本尊を拝みたいとの要望を発せられましたので、「どうぞどうぞ」と御案内すると、それは丁寧に、合掌礼拝され、称名念佛され、終ってつかつかと住職に歩みよるや「どういうご利益がありますか」とお尋ねになったのが思い起こされます。

そのことがご縁で三ヶ月後に誕生した「ふとあおぎみるおすがたは」がこの六年の間に漸く深まりを見せ、親鸞聖人の『聞即信(もんそくしん)』のお法りとなって迫って参りました。

「信」は目に見えませんが、「聞」なら聞こえて下さいますから他力の念仏者に随念して聞名させて戴くことができます。第十八願の「乃至十念」は、随念(付き従って称える)だったからです。合掌。

(ご案内:正覚寺のホームページは、「正覚寺 北小松」でヒットする「FC2」からお入り戴けます)